

日本医史学雑誌 第63巻 第2号

目 次

第118回 日本医史学会総会・学術大会 演題目次

プログラム

特別講演

- 特別講演「昭和・平成の医学の歩みを未来へ」によせて……………猪飼 祥夫 161
- I 放射線画像システムの発展史と将来像……………伴 隆一 162
- II 歯科分野の発展と未来展望
——歯科治療における術者中心のシステムの構築——
……………石田 雅司, Daryl R. Beach, 小佐々晴夫 163
- III 夢分析:「もの言う分析」から「もの言わぬ分析」へ
——「解釈」から「沈黙」へ——……………秋田 巖 164
- IV 消化器癌に対する内視鏡手術の現状……………田中 浩明, 平川 弘聖, 大平 雅一 165

一般演題

- 1 赤木家の人々とその蔵書……………清水 信子 166
- 2 池田瑞仙と『唇舌帖』の考察……………西巻 明彦 167
- 3 「須佐之男厄神退治図」(葛飾北斎)に描かれた病……………鈴木 則子 168
- 4 三国・両晋・南北朝の佚亡医書に見られる灸法記載……………川端かおり 169
- 5 明治女医の一側面——鬼才・油川太嘉……………三崎 裕子 170
- 6 第二次大戦後のわが国80大学の医学教育カリキュラムにみる
“アメリカ医学”の変容……………逢見 憲一 171
- 7 頼春風と頼家……………松岡 尚則, 田中耕一郎, 別府 正志, 並木 隆雄 172
- 8 東福寺荘厳院にある吉益東洞と中西深斎の墓の現状について……………黒川 達郎 173
- 9 戊辰戦争における銃創看病人の始まり……………鈴木 紀子 174
- 10 森祐晴と泊雲塾……………飯塚 修三 175
- 11 明治政府お雇い外国人医師スクリバ博士の人物像と人柄
——その生涯と家系——……………高橋日出雄, 高橋 薫 176
- 12 細川忠興の眼病と江戸時代初期の眼科……………谷原 秀信 177
- 13 老官山漢墓出土『六十病方』の知見……………真柳 誠 178
- 14 讃岐尾池家, 備中赤木家の資料を中心とする18世紀瀬戸内地域の
医学に関する考察……………町 泉寿郎, 中澤 淳 179
- 15 中国伝統医学と道教(第37回)「道教と禪」……………吉元 昭治 180
- 16 易経と東洋医学との関わり……………権藤 寿昭 181
- 17 時代と実用性から見た乃木式義手の検証
——作業療法の視点から——……………木村奈緒子, 鈴木 紀子 182

18	明治期日本の職人の製作した皮下注射器 ——佐倉市所蔵・佐藤恒二旧蔵資料から——	月澤美代子	183
19	合田強の『医道聞書』について	板野 俊文	184
20	宮崎の風土病	大西 雄二	185
21	日本の醫制へのオランダの医療監理法の影響	相川 忠臣, ハルメン・ボイケルス	186
22	鹿児島県の医療史について	園田 真也	187
23	台湾総督府文書にみる日本統治下台湾における精神病患者監護法 および精神病院法の実施	橋本 明	188
24	済生学舎を創設した長谷川泰の思想的系譜 ——鶴殿春風の果たした役割——	殿崎 正明, 山本 鼎	189
25	『精神障害者問題資料集成(戦後編)』の構想	岡田 靖雄	190
26	外科医アストリー・クーパー卿の教え	柳澤 波香	191
27	東京薬科大学所蔵の先哲遺墨	小曾戸 洋	192
28	京都帝国大学医科大学の医化学講座初代教授荒木寅三郎と その一門について	中澤 淳	193
29	近代初期の医学書誌目録における「医学学習指南書」の 記載について	澤井 直	194
30	賀川玄悦の学統——賀川嫡家と大阪賀川家との関係について	今井 秀	195
31	東洋女子歯科医学専門学校校長・宇田尚(第3報)	永藤 欣久	196
32	わが国の医師免許制度の法制化について ——『吾園叢書』所収「医師営業規則」草案より——	樋口 輝雄	197
33	敦煌卷子医書2点の綴合	沈 澍農	198
34	「元氣」と「原氣」考	王 明強	199
35	影宋本『重廣補注黄帝内經素問』版本諸問題について	王 旭東	200
36	『経絡明弁』について	鶴田 泰平	201
37	指圧術について	清野 充典	202
38	『十五指南篇』診切指南篇所載の脈法記載について	中川 俊之	203
39	江戸期河内地方の儒医たち その日常生活について	田中 祐尾	204
40	宇治田雲庵『医学弁害』(1680)の「病家類」にみる 医の実践対象としての病家	平尾真智子	205
41	傷寒雑病論以降、補土派と補腎派の成立についての一考察	莊 明仁	206
42	地方藩医の江戸勤学——米沢藩医水野道益「杏陰日録」の検討	海原 亮	207
43	研医会図書館所蔵森約之書入れ本『脈学輯要』について	安部 郁子	208
44	味岡三伯一門の薬性薬効論： 『薬性知源』『本草拔書』『薬性記』とその講義録	吉川 澄美	209
45	小坂元祐撰『十四経絡発揮広要』について	加畑 聡子	210
46	浅田宗伯門人、中野康章にみる漢方医学の継承と古書の蒐集	野尻佳与子	211

47	『和脩脈書』について	木場由衣登	212
48	岡部素道著『臨床鍼灸治療学』について	周防 一平, 小田口 浩, 花輪 壽彦	213
49	『香川修庵医談』に残る後藤良山『病因考』の研究	星野 卓之, 小田口 浩, 花輪 壽彦	214
50	日本における『茶経』の受容について ——陸羽の卒年と交流を記す資料ほか——	岩間眞知子	215
51	新出の香川南洋の門人録について	永塚 憲治, 松岡 尚則	216
52	医学のシルクロード	松田 博子	217
53	占領期の衛生教育に関する研究 ——“Information Unit”の組織化について——	田中 誠二, 杉田 聡, 丸井 英二	218
54	20世紀欧米と日本の美術解剖学史	加藤 公太, 岡村 太郎, 坂井 建雄	219
55	養育院の最も古い史跡： 明治6年に建立の大雄寺の養育院『義葬之塚』について	稲松 孝思	220
56	古代ギリシャ医学（AD3世紀以前）におけるカルキノスの症候論	堀 忠	221
57	フォルデルマンのオランダ領東インド刑務所給食調査と 脚気研究との関連	山下 龍	222
58	モリソンの伝統医療観	郭 秀梅	223
59	ゲーテと医療（第2報） ——二代の侍医父フーフェラントと子フーフェラントとの関係——	鈴木 重統	224
60	日本海海戦におけるロジェストヴェンスキー提督の 受傷状況と治療経過	柳川 鍊平, 坂井 建雄	225
61	京都帝国大学医学部における戦時動員と戦後	末永 恵子	226
62	17世紀イギリスにおけるアルコールの害と『オセロー』	遠藤 花子	227
63	医師村上英俊が編纂した本邦初の仏和辞書「佛語明要」	小林 晶	228
64	京都・岡崎町の解剖場	八木 聖弥	229
65	永松東海と日本薬局方	青木 歳幸	230
66	CDCの歴史から学ぶ事	加藤 茂孝	231
67	山根文策小伝——特にその人脈を中心に——	志村 俊郎, 都倉 武之	232
68	内科学教科書の結核病因についての記述の変遷： ベルツの『内科病論』を中心に	渡部 幹夫	233
69	華岡家へ入門した門人たち ——2200人を上回るわが国最大の医学塾——	梶谷 光弘	234

70	華岡青洲の弟子・小田順亭と帆足萬里の弟子・小田魯庵が 同一人物である証拠の発見……………	金谷 貢, 金谷 桂子	235
71	『華岡青洲先生及其外科』掲載の「華岡青洲先生春林軒門人録」の 期日は入門日である……………	金谷 桂子, 金谷 貢	236
72	「活物窮理」の四文字が華岡青洲の標語である……………	松木 明知	237

誌上発表

73	『万安方』と『福田方』におけるいわゆる「経外奇穴」について ……………	橋本 史代	238
74	天野芳太郎氏から秋田義雄博士に贈られたプレインカの頭蓋骨……………	猪飼 祥夫	239
75	『診家枢要』について……………	宮川 隆弘	240
76	耳鳴について……………	三浦 喬	241
77	『鍼灸遡洄集』について……………	岩田源太郎	242
78	『経験漢方処方大成』について ……………	坂田 幸治, 小林 義典, 小田口 浩, 花輪 壽彦	243
79	森立之『素問校注』の巻一について……………	澤谷 直子	244
80	万全の鍼灸……………	橋本 典子	245
81	お雇い外国人医師 ショイベの素顔 ——「愛するお母様！」へ「あなたの息子ポート」より——……………	葉山美知子	246
82	チェーホフの作品における医師像……………	藤倉 一郎	247
83	西鶴作品にみる身体に関する語（五）……………	計良 吉則	248
84	『緒方洪庵歌集』にみる「老」のうた……………	小曾戸明子	249
85	『脈賦』について……………	水溜 亮一	250
86	『皇国名医伝（正編）』の版本について……………	吉岡 広記, 山田 恵美	251
	投稿規定……………		257
	編集後記……………		259